

プロ
パーム

茨城工場で能力倍增

大石産業 環境特性に評価



山口社長

包装資材メーカーの大石産業は茨城県内の生産拠点でパルプモールドの生産を倍増する。約23億円を投じて古紙の溶解から成型、乾燥までの一連

の装置を増設し、このほど稼働を開始した。新設備の日産能力はトレー換算で15万枚。環境に配慮した包材としての需要増に対応する一方、生産性や品質のさらなる向上にも取り組む。

製造ラインを新設した。内訳は段ボールメーカーから出る端材や新聞、チラシなど古紙の溶解炉「パルパー」をはじめ、異物除去や濃度調整を行う原質調製、バキュームでパルプ熔解液を金型に吸着させて成形する回転マシン、乾燥などの一連の製造設備。2日に行われた始動式で、山口博章



トレー換算で日産15万枚の新製造ライン

.....
な時代への決意表明だ」と力を込めた。

大石産業はパルプモールドの大手で、1996年に茨城で生産を開始。鶏卵ケースや大手ファストフ

社長は2025年に100周年の節目を迎えたことに触れつつ、「(今回の増設は)次の100年に向けた大きな挑戦、新た

ドチエーンのドリンクキヤリア、青果物容器、透析用容器などに展開し、鶏卵向けパルプモールドのシェア6割を占めてい

る。近年、古紙をリサイクルする環境特性が評価されて需要が増加しており、茨城拠点の日産15万枚の既存設備と一部特殊品向けの工業機ライン、さらには青森と福岡の製造拠点も含め、稼働率100%の状況が続いていた。

「今後も市場が伸びていく(山口社長) 見込み

のなか、今回の増設で生産に余力を持たせるだけでなく、古紙に混入するプラスチックや医療機器用途で敬遠される特定の着色顔料など、異物の除

去技術や成形品の品質を上げる技術にも磨きをかける。茨城拠点の従業員は56人で、新設備は3直3交代で稼働させるが、山口社長は「できれば4直3交代で回したい」と、人員増も見込む。来期にはパレタイズ設備の追加投資も予定しており、新規用途の開拓にも拍車をかける。

求められるさまざまなニーズに対応できる。フィルムに比べコストが3倍近いため高級品向けの引き合いが多く、クロースドのリサイクルシステムにも対応。また、輸送時には衝撃緩和だけでなく、トマトなど青果物から出る水分も吸収することで痛みを防ぐ効果もある。

パルプモールドは水と古紙だけで製造する環境負荷の低い包材だが、古紙の種類の配合組成や自社製造の金型による形状制御などにより、容器に

大石産業はフィルム、紙袋、段ボールの事業も展開している。パルプモールドとフィルムが事業の2本柱で、26年3月期の売上高は234億円。